

# 巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

看護学研究科は、2017年度創設20周年を迎えました。看護学研究科は平成10年に設置され、現在までに236名が修了し、99名が専門看護師として、20名が認定看護管理者として活躍しています。平成13年に看護学の博士教育を開始し、平成26年から看護学専攻博士前期課程・博士後期課程を創設しました。同年に、災害看護グローバルリーダー養成プログラムによる5年一貫制の博士課程、共同災害看護学専攻も新設しました。今日までに、看護学博士を有する50名の修了生が看護学の発展に取り組んでいます。

高知県立大学看護学部では次世代の保健医療領域の専門職者を育成するという責務を、さらに大学院教育では高度実践者の育成及び将来の看護学を構築する教育者、看護学研究を推進する研究者を育成する責務を果たしてまいりました。最近では、科学研究費の採択率も高く、臨床看護学領域と高齢看護学領域では第一位となっています。このように、高度実践者を育成する教育力と新たな知に挑戦する研究力を有する教員集団として発展しています。

我が国の医療を取り巻く世界、教育を取り巻く世界は転換期を迎えていますが、この転換を促進していくためには、専門職者である看護者に大きな期待が寄せられ、教育改革や働き方改革に取り組んでいくように要請されています。

我が国の教育改革の一つとして、知識伝授の教育からコンピテンシー・学修成果へと転換することや、現象に積極的に関与する能力を育成することが求められています。看護学教育もまた例外ではありません。日本学術会議は文部科学省高等教育局から委託され、各学問分野における分野別の教育課程編成上の参照基準を作成しています。看護学分科会では、看護学の学問としての固有な特性や学修方法・学修成果などを踏まえて平成29年9月に「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準—看護学分野」を公表しています。また、文科省高等教育局医学教育課においては、歴史的には知識基盤のコアカリキュラム、医学教育のモデルコアカリキュラムをブループリントとして、平成29年10月に「看護学教育モデルコアカリキュラム」を示しています。日本看護系大学協議会は、平成29年11月に、看護学教育の質の保証と向上に向けて、看護者としてのコンピテンシーと卒業時の具体的な学修成果を視野に入れ、「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標（案）」を公表しています。従来より看護学部においては、日本看護系大学協議会が示している実践能力・コンピテンシーを基盤とし、実習場面においても学生に問いかけ、看護現象に積極的に関与するように導いてきたように思います。皆様方もきっと「どう思うの?」「どうしたいの?」「それで?」と問い続けられたことを思い出されるのではないのでしょうか?

平成30年9月1－2日には、長戸和子教授が日本家族看護学会学術集会「家族看護学のグランドデザインへの挑戦」を開催します。高知県立大学看護学部の教員が全国学会をリードしていることを、嬉しく思います。高知女子大学の皆様方も、ぜひ高知に帰ってきて参加してください。